



天文資料

2018年 7月号

平成30年度 第4号 (7月号)

平成30年 6月25日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



＜今月は土星が見ごろとなる。火星が大接近を迎える。＞

7月に入ると、梅雨も末期を迎えます。大雨になりやすい時期でもありますので、気象情報には十分気をつけてほしいと思います。

そして梅雨明けを迎えると、いよいよ夏本番がやってきます。街灯のないところへ行くと、南の空から立ち上るように天の川が見えることでしょう。頭上には、その天の川をはさむように、青白く輝くこと座のベガ(おりひめ星)と、白く輝くわし座のアルタイル(ひこ星)が輝いています。また、天の川の中には、この2つの星の橋渡しをしたはくちょう座のデネブがあります。(昔話では、はくちょうではなく、カササギです。) この3つの星を結んでできる三角形が「夏の大三角」です。

夏の「大三角」で一番南にあるアルタイルからさらに天の川を南に下ると、赤く輝くさそり座のアンタレスが目に入ります。この両側に明るく輝く星がありますが、西側(右)が木星、東側(左)が土星です。そして土星のさらに東側から、赤く輝く火星が昇ってきます。

15年ぶりに地球に大接近となる火星ですので、望遠鏡を使えば表面の暗い模様なども見ることができるようでしょう。7月31日が最も近づきますが、7月中旬～8月中旬は絶好の観望期になりますので、天体観望会に参加する機会があれば、ぜひ望遠鏡をのぞいて自分の目で観察してほしいと思います。



今年の夏休みは、木星・土星・火星が南の空にそろって、すばらしい時期になります！

最後に、忘れてはいけないうそに輝く金星です。現在、内合に向かっていますので、姿も大きくなり

半月に近い形になっています。こちらもぜひ観察してください。

＜その他の7月の主な天文現象 ～夏休みの自由研究に～＞

夏休みも控えているので、今月と来月の2回にわたり7～8月の天文現象を紹介します。

7月12日(木) 水星が東方最大離角(⇒)

水星が6月下旬から7月中旬まで西空低くで見つけやすくなります。(日没後1時間程度) 太陽に一番近い惑星ですので、見られるチャンスはなかなかありません。ですから、今回は絶好の機会と言えます。明るく輝く金星の右下低く、-1等～0等級で輝いていますが、特に7月15日(日)～16日(月)は細い月も加わりますので、夕空にぜひ目を向けてください。



7月28日(土) 午前3時過ぎから皆既月食が起こる 皆既中の満月(左)と通常の満月(右)⇒

午前3時24分頃から月食が始まり、午前4時頃に約半分が欠けます。さらに食が進み、午前4時30分頃に皆既食となり、そのまま月は沈んでいきます。(月没常食と言います。) 厳しい時間帯ですが、午前3時頃から頑張っておきてみてほしいです。

